

HIPPOCAMPUSプレミア

チューリッヒの時計職人ミキ・エレタ氏の最新作品のワールドプレミアが**MB&F M.A.D.**

ギャラリーで開催されます。**HIPPOCAMPUS**という時計は、音楽が流れる**2.8メートル**の過去最大サイズの作品です。その鐘は**100年**に一度だけなります。音楽は自動巻きで、重りで正確な時間を維持します。

非時計職人が28個の時計を制作

"不可能な物はない。私は他人より賢いわけではない。ただ粘り強いだけだ。" -ミキ・エレタ

ミキ・エレタは独学で時計作りを学び、時計職人になりました。彼は通常の重量が**2500グラム**であるエスケープメントを**40グラム**まで軽量化した彼独自のエスケープメントを作り上げました。**ELETA-HEMMUNG** エスケープメントは彼のいくつかの時計に使用されています。

彼の作品をご覧になりたい方は、**SIHH開催中 (2013年 1月 19日から25日)**に**MB&F M.A.D.ギャラリー**にて彼のユニークな**6作品**が展示されますので是非お越しください。

CONTINUUM MOBILE

時計は**100時間**分の電力を保存し、斜交軸の上部が見えるようになっているトゥールビヨンケースが搭載されています。このトゥールビヨンは自重で動力を得ています。過重する事で重量を不均衡にすることで稼働させています。彼はこれを「インスピレーション・クロック」と呼びます。インスピレーション彼の人生にとって不可欠です。彼曰く、インスピレーションを欠く事自体稀ですが、そういう時にはこの時計の事を考えます。ねじまきのメカニズムがコラムの中にあり鍵によって巻かれています。

PENTOURBILLONはダブルフライングトゥールビヨン式の時計で、裏側にある花びらが昼夜のリズムに合わせて開閉します。これはトゥールビヨンによる美しい魔法です。

LUNAは二重振り子式の時計です。**1.2メートル**のクロムとスチールのコラムで出来ています。ジャンピング・アワーが直前にその時間の直前に発動するのが見られます。時刻を表示するだけでなく、月相、**12星座**、そして季節も表示します。

No. 26はエレタのクロノメーター・エスケープメントです。

2秒毎に振動して**8日間**の電力保存を提供します。ねじまきの重りはわずか**200グラム**しかありません。この重りには月相指標が含まれていて月の動きとミステリアスに連動しています。

DIE SIEBEN

は時計ではなく、小さなスチールボールが動き回る彫刻です。目と耳で楽しむことが出来ます。高さ約**1.4メートル**、直径**60センチ**の**DIE SEBEN**は、**16種類**の音色を持ち、時計の円に沿って**16の通り道**があります。スチールボールが**16個**のペンタトニック・シリンダーと**47個**の歯車を通ります。これらの歯車はスチールボールを通り道に送り、**7年**に一度の間隔で音を鳴らします。

多くの逸話を持つ稀な男の人生

ミキ・エレタは**1950年**にボスニア・ヘルツェゴヴィナで生まれました。**7歳**の時のある朝、フラメンコの音で目を覚ました。その音楽は彼にとっての啓示でした。彼はギターを手に取り、弾き方を学びました。**23歳**の夏、姉の住むスイスに移り職を見つけ、その給料でギターを購入しました。しかし、**3か月**後に彼はそこを離れました。彼自身の手で機械を作るという考えが頭の片隅に浮かび始めたからです。そして、彼はあるクライアントから金属のサンプルを製造する依頼を受けました。しかし、ミキはそれらの金属を使用して音楽の機械を製造する事をクライアントに提案しました。**90年代**の初め、ミキは主にアンティークの修復に専念していましたが、それが次第に時計になり、最終的には腕時計に至りました。

ミキは**2000年**まで

動く彫刻を制作していました。**2001年**、クライアントが彼の作品の精密さに疑問を抱いていました。そこで、ミキは彼の技術を証明するために一年間の制作期間をもらい時計を制作しはじめました。彼は時計の設計について何も知識がなかったので、革新的な時計メカニズムで有名な**AHCI**のメンバーであるポール・ゲルベル氏に連絡を取りました。ミキはベルンの時計職人である彼に時計の仕組みについて解説してもらいました。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

Eメール：jd@mbandf.com 電話：+41 22 508 10 36

一年後、時計は仕上がりましたが、そのクライアントが戻ってくる事はなかったので、その時計を見せる事も、手渡すこともできませんでした。これは時計作りに全身全霊を注ぎ込む時計職人のたくさんある逸話の一つにすぎません。自由な魂。彼は一人前の時計職人になる事を決意しました。彼は、学校は人を型にはめ込み、想像力と革新的を奪うと信じていました。

彼は15年間以上の時間を二つの情熱に注ぎました。- 家族と制作です。

彼はたぐいまれな作品を一年に2作品ずつ作り上げました。現在までに28個の時計を完成させています。その内7作品は現在も彼の工房で購入する事が出来ます。彼の残りの時間の過ごし方は、工房から300メートル離れたところにある菜園でトマトを栽培する事です。彼は妻と一緒に自転車に乗って菜園に向かいます。その時も必ずアイデアを書き込むノートを手放しません。残念なことに彼にはギターを弾く時間がありません。「一度にあちこちの場所にはいられないからね。それなら休暇中はどうだって？」彼は白くなった顎鬚から満面の笑みを覗かせてこう答えます。「休暇って何のことだ？